

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 3月 15日

【評価実施概要】

事業所番号	0170503601		
法人名	有限会社 ほのぼの月寒		
事業所名	グループホーム ほのぼの月寒		
所在地	札幌市豊平区月寒東2条19丁目20番59号 (電話) 011-850-0775		
評価機関名	株式会社 社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区南3条東2丁目1		
訪問調査日	平成21年3月10日	評価確定日	平成21年4月2日

【情報提供票より】 (平成21年2月 28日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 17年 11月 15日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	17人	常勤	15人, 非常勤2人, 常勤換算6人

(2) 建物概要

建物構造	木造サイディング 造り		
	2階建ての	1~2 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費: 25,000円 暖房費(11-3月)10,000円
敷金	有(90,000 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 450 円
	夕食	500 円	おやつ 50 円
	1日当たり	1,300 円	

(4) 利用者の概要(2月28日 現在)

利用者人数	18名	男性	4名	女性	14名
要介護1	7名	要介護2	6名		
要介護3	5名	要介護4	0名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 84.7 歳	最低	69 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団 悠仁会 羊ヶ丘病院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「ほのぼの月寒」は、国道から徒歩5分ほどの住宅街にある2ユニットのグループホームである。周囲には、緑豊かな公園や商店、札幌ドーム、温泉施設などがあり、恵まれた地域に立地している。運営者は、高齢者に「ほのぼの」とした生活を提供したいという思いでグループホームを設立している。施設長(管理者)は、人として当たり前の生活をするを基本に、集団生活ではあるが可能な限り個別の生活を実現していきたいと考え、地域の商店に買物に出かけたり、喫茶店でお茶を楽しむなどの支援をしている。また家族、職員、地域の人々と協同して、利用者の思いを第一に優先する安全で安楽な日常生活を目標としている。日々の介護に携わる職員の努力に敬意を払い、新年度は職員研修を充実させ後継者の育成を図ることでサービスの質の向上を目指している。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	地域とのつきあい、評価の意義の理解と活用については改善されている。運営推進会議を活かした取り組み、職員を育てる取り組み、重度化や終末期に向けた方針の共有、災害対策については真摯な姿勢で改善に向けて取り組んでいるところである。
重点項目①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者は、全職員に自己評価表を配布し、日常の業務を客観的に記入するように指導している。管理者は職員と個別に話し合う場を設け、職員の意見を聞く機会として活用している。また、職員は、評価の意義を理解し日々の業務の見直しを行っている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	平成21年1月に2回目の運営推進会議を開催している。開催頻度が少なく管理者が交代したということもあり、1月開催の会議を初回と位置づけ町内会長、民生委員、地域包括支援センター職員を対象にグループホームの役割を中心に説明をしている。次回は4月に開催を予定している。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月、金銭出納に領収書を添付し家族等に送付をしている。その際に管理者は、「ほのぼの便箋」を使って全体と個別の様子をまとめた手紙と写真を同封し、暮らしぶりを報告している。来訪時に話し合うように努め、家族等からの電話も多く、対応職員はその内容のメモを主任のファイルケースに入れ、主任が連絡ノートに記入することで情報を共有している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、ゴミ拾いなどに参加している。ホーム主催の夏祭りには、近隣の各戸にチラシを配布し、よさこいソーランの踊りなどを楽しんでいる。また、地元の人々が町内会のかかる大会に備えて、その練習にホームを訪問するなどの交流がある。町内会活動が活発な地域であり、4月に予定されている町内会の総会では、施設長が参加しグループホームの主旨を説明することとなっている。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	平成17年の開設時に運営者が「笑顔と思いやり」を柱に3項目の運営理念をつくっている。その中には「地域との繋がりを大事にし、地域での需要に応えながら、地域に密着したグループホームを目指します」という文言が含まれている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、玄関、スタッフステーションに掲示し職員の名札の裏面にも記載してある。ミーティングの場で話し合うこともあり、理念を共有することで職員が同じ方向を向くことができると考えている。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、ゴミ拾いなどに参加している。ホーム主催の夏祭りには、近隣の各戸にチラシを配布し、よさこいソーランの踊りなどを楽しんでいる。また、地元の人々が町内会のかかるた大会に備えて、その練習にホームを訪問するなどの交流がある。町内会活動が活発な地域であり、4月に予定されている町内会の総会では施設長が参加しグループホームの主旨を説明することとなっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	施設長は、全職員に自己評価表を配布し、日常の業務を客観的に記入するように指導している。職員と個別に話し合う場を設け、職員の意見を聞く機会として活用している。また、職員は、評価の意義を理解し日々の業務の見直しを行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開設後、平成19年4月と平成21年1月に開催している。開催頻度が少なく管理者が交代したということもあり、1月開催の会議を初回と位置づけ町内会長、民生委員、地域包括支援センター職員を対象にグループホームの役割を中心に説明をしている。次回は4月に開催を予定している。	○	今後は、利用者、家族、事業所の職員参加で2ヶ月に1回の開催を予定しているということなので、その実現を期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は、常日頃から市や区の担当者とより良い関係づくりに努めている。介護保険の認定に係る事務手続きや提出書類の記入方法などの他にも生活保護課と連携を図り、行政機関とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、預かり金と支出の金銭出納に領収書を添付し家族等に送付している。その際に施設長は、「ほのぼの便箋」を使って全体と個別の様子をまとめた手紙と写真を同封し暮らしぶりを報告している。ユニット間での異動や離職などによる職員交代は報告していない。	○	毎月、送付している手紙に職員の交代を報告することを期待したい。また、事業所内に写真を使って職員紹介を検討しているということなので、その実現を期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の意見を運営に反映することができるよう、玄関に意見箱を設置している。来訪時に話し合うようにし、家族等からの電話も多く、対応職員はその内容のメモを主任のファイルケースに入れ、主任が連絡ノートに記入することで情報を共有している。	○	家族等の意見を専用のノートなどに記入することで、更に家族等の意見が運営に反映されることを期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	各々の職員が2ユニット18名の利用者の介護を行うことができるよう、ユニット間で随時、異動をしている。ユニット合同でのレクリエーションや日常的な交流があるので、利用者へのダメージはない。離職などの職員交代は知らせていないが今後は、職員の育成に努め定着率120%を目指している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、書籍代と研修費として年間予算を組み1名の職員が年間1～2回の外部研修に参加できるようにしている。研修レポートを作成し定例のミーティングで伝達講習をしている。今年度は、認知症介護実践者研修の対象となる勤務年数3年目の職員がいるので積極的に研修に参加させたいと考えている。	○	新年度は、研修計画を作成し職員を育てる取り組みを積極的に行っていききたいとのことなので、その実現を期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市外にある同一法人の他事業所に1ヶ月以上の期間に渡って主任を派遣し、自事業所に対する客観的な視点を養っている。また、施設長のネットワークを活かして他事業所を見学し手作りカレンダーなどを参考にしている。利用者と職員が茶話会という形式での相互訪問をしていくことを区の管理者会議で検討しているところである。	○	職員が地域の同業者と交流する機会を持つことができるよう検討しているということなので、その実現を期待したい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス利用開始前には、本人、家族に見学を勧め、居室などを見てもらうようにしている。その際には、グループホームの説明を行い納得して利用開始ができるように努めている。本人の望んでいることは何であるのかを考え、不安感を軽減できるよう側に寄り添うようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者から畑仕事や掃除の仕方、茶碗の洗い方、味付けなどを学んでいる。利用者が夜勤の職員に夜食を作ったり、ひざ掛けを用意することもあり、支えあう関係を実感している。また、女性職員が利用者と一緒に涙を流すという場面もあり、喜怒哀楽を共にしている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者は、若い職員や経験の浅い職員に、日々の会話の中で思いや意向を話す事があるので、それを聞き逃さないようにしている。表現できない人には、いくつかの提案をして選択して貰うようにしている。天気の良い時に声をかけて出かけたリ、通院の帰りに食事に誘うなど、色々な機会に働きかけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用開始時に、施設長、介護支援専門員が自宅を訪問して家族の意向や、本人は何がしたいかなど情報を得て、介護支援専門員が介護計画を作成し、会議で話し合い確認をしている。家族の来訪時に、介護計画について説明し、利用者にも説明をしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	短期目標3ヶ月、長期目標6ヶ月に設定して支援を行い、定期的に介護計画の見直しを行っている。サービスチェック表を作成して、介護計画の対応がどのように行われているか、できているかを記録して毎月会議を行っている。体調変化や介護度の変更などが生じた時は、随時計画の見直しを行い、現状に即した新たな介護計画を作成している。	○	利用者の思いや意向を把握するための様式（センター方式）の一部分を使用しているので今後は、更に様式を活用して本人の理解を深めて行きたいと言う事なので、その取り組みを期待したい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	おむつサービスを利用して家族の負担を減らすように支援している。家族が困難な時や、身よりのない利用者に対しては、通院の送迎など柔軟な支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用開始時に説明し、かかりつけ医に紹介状を書いて貰い協力医療機関に変更して貰っているため、かかりつけ医の継続は行われていない。協力医療機関への送迎は、事業所が対応している。協力医療機関以外への通院は、家族と共に職員も同行している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に対する指針が作成されていないので、利用開始時には、その都度話し合いをしていく事を説明している。重度化や終末期に関して、家族や医師など関係者と話し合った内容は、その都度施設長が介護日記に記録している。	○	重度化や看取りに関する事業所の方針を文書化するよう、期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者を敬い、年上の人と言う事を念頭に置いて対応するように配慮している。幼児言葉を使った職員に対しては個別に注意して指導している。排泄時は、羞恥心を考えて耳元でささやくようにしている。会議では、名前を暗号化して分からないように配慮している。	○	現在、スタッフルームで保管している個人記録は、別室で保管する準備を進めているとの事なので、その取り組みを期待したい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	理念に掲げているように、毎日楽しく、笑って過ごして貰えるように一人ひとりの利用者の希望に沿って対応している。当日の外出希望にもすぐ対応し、喫茶店に行ったり、買い物に1日2回行く事もある。利用者がしたい事を優先するように配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、食材委託業者が作成しているが、利用者の意向を聞いて食材を工夫したり、利用者と一緒に買い物に行き献立を変更したりすることもある。食器拭きや片づけ、味見、下ごしらえなど意識的に手伝って貰うようにしている。外食に出かけたり、寿司の出前を取ったりして、食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、曜日や時間を決めることなく利用者の希望にあわせて週2回以上入浴できるようにしている。入浴拒否をする利用者には、入浴剤を利用したり、仲の良い人を誘って一緒に入浴して貰うなどの工夫をしている。異性介助は、利用者の意向を聞いて対応している。	○	今後は、近くの温泉での入浴も楽しみたいという事なので、その取り組みを期待したい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除や、家事仕事、畑仕事など利用者に応じて手伝って貰うように工夫している。ボーリングや喫茶店、ケーキ屋さんに出かけるなど個別に対応して楽しんだり、気晴らしが出来るように支援している。季節により、イチゴ狩りや雪祭りにも出かけている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	夏季は、庭の草むしりやお茶屋さんにお茶を飲みに出かけるなど、利用者に応じて毎日や、少ない人でも週2回は出かけられるように支援している。冬季も、大型ショッピングセンターやお茶屋さんに出かけて、外出を楽しんでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関にセンサーを設置しているが、防犯上夜間のみ施錠している。居間からは、ガラス窓を通して玄関が見渡せるような構造になっている。役割を持つ事で帰宅願望が少なくなる事を理解して、なぜ出かけようとするか理解して対応するように心がけている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、日中を想定して初期消火や通報訓練などの自主避難訓練を行っている。運営推進会議で災害時の協力を依頼すると共に、避難訓練時は、近隣にチラシを配布して周知させている。避難誘導、通報、初期消火、金品持出班など、災害時組織班を作っている。	○	今後は、消防署職員に来てもらい消火器の使い方や夜間避難訓練など地域住民参加のもと、将来的に地域の避難訓練に繋げていきたい意向なので、その取り組みを期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は、食材委託業者に委託して栄養管理を行っている。介護記録に、利用者一人ひとりの食事摂取量、水分摂取量を記録して把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には、利用者と職員の笑顔あふれるスナップ写真を利用して、壁飾りや、窓ガラスにさり気ない季節の装飾をして季節感が感じられるように工夫している。居間のホワイトボードには、利用者が記入した日付が書いてある。食事の支度が見渡せたり、食器棚など家庭的な家具を配置し、生活感が感じられるように工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の入口には、暖簾や利用者の写真を飾りそれぞれの居室が分かりやすいようになっている。居室内には、趣味の折り紙作品や写真を飾ったり、箆笥や好みの物が持ち込まれ、利用者が安心して居心地良く過ごせるような工夫がなされている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。